豪雪・過疎の地方の現場から

新潟県中魚沼郡津南町長
桑原　悠

津南町長
桑原悠　自己紹介

- 1986（昭和61）年、津南町生まれ。
- 津南中学校、県立国際情報高校卒業後、早稲田大学社会科学部入学、米国オレゴン州立大学に交換留学し卒業後、東京大学公共政策大学院に進学。
- 2011年東日本大震災、長野県北部地震がきっかけで、在学中に津南町議会議員選挙に当選。2015年に再選。2018年、津南町長選挙に当選
- 養豚農家（越後もちぶた）に嫁ぎ、3歳半、2歳の子の母。

2011年、あの東日本大震災、翌日の長野県北部地震がきっかけとなり、故郷に戻ることを決意。

議員在任中は、もっと身近な地方自治の実現に向け、
低価でできるインターネット動画サイトを使った議会中継を実現。
現在は、議事録も津南町議会ホームページで見れるようになった。

USTREAM

農家、宿泊業、飲食業、直売所など
立場が異なる人をつないで、みんなで
特産品フェアを開催

2018年7月、津南町長に就任

町長室にキッズスペース

津南町の概要

位置と地勢

・新潟県の最南端
・信濃川が西南から北東に還流
・面積　170.28㎢
・標高　最低177m～最高2,145m（苗場山）

交通アクセス

・JR東京駅から上越新幹線越後湯沢駅まで1時間半、その後乗用車にて40分
・関越自動車道練馬ICから塩沢石打IC経由3時間

・日本有数の豪雪地帯（最高積雪3m超）

・年間降水量2,000㎜

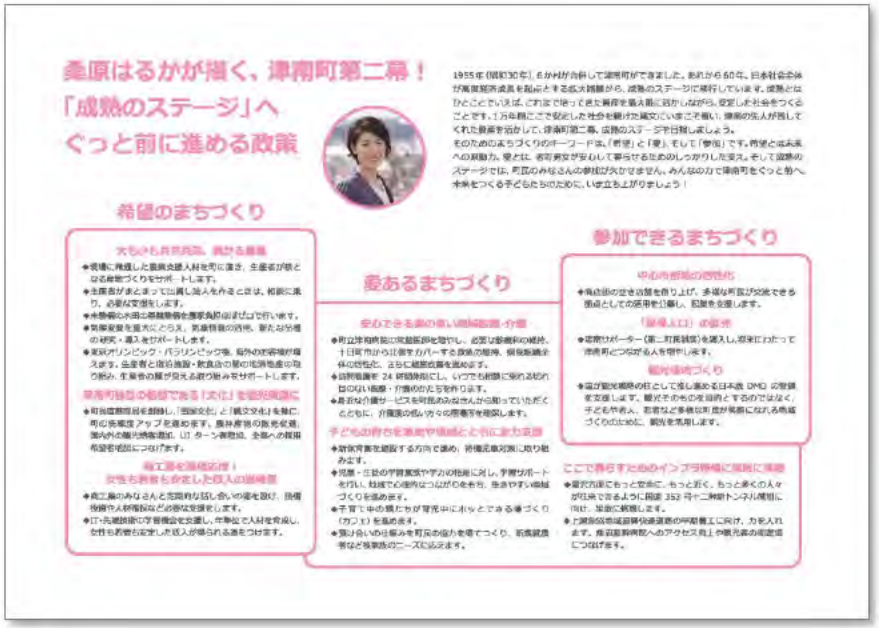
・山間盆地で湿度は比較的高く、風は少ない

・年平均気温10.9℃

・一日の温度差が大きいのが特徴

私が掲げた政策

基本政策集



パブリテック版政策集

＋

町民の目線に立った**半歩先**の政策

基本政策にテクノロジーの利活用を加え、より未来を見据えた**二歩、三歩先**の政策

パブリテックとは

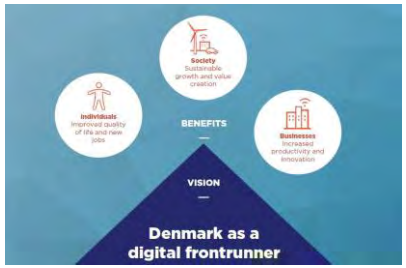
【パブリテック（Publi-tech）】

公（Public）の課題をテクノロジー（Technology）を通じて解決する取り組み。

鎌倉市において行政経営部行政経営課にパブリテック担当を設置するなど国内の地方自治体でも取り組みが始まっている。（2018年1月市長定例記者会見より）

■海外事例によるイメージ

- エストニア：電子政府政策を進めることで利便性の高い国民生活を実現。
- デンマーク：医療・福祉分野にデジタル技術を導入し効果的な政策を推進。
- 中国深圳市：先端技術の実験場として数万人の漁村が世界最大級の産業都市に変貌。



津南町におけるパブリテック展望

＜基本政策方針＞

- 大も小も共存共栄、儲かる農業
- 「文化」を観光資源に
- 女性も若者も安定した収入の道確保
- 安心できる質の高い地域医療・介護
- 子供の育ちを家庭や地域とともに全力支援
- インフラ整備に果敢に挑戦
- 中心市街地の活性化
- 「関係人口」の拡充
- 観光地域づくり

＜パブリテック領域＞

- アグリテックの推進
- テクノロジーを活用し町内外で共有
- テレワークを推進し、様々な就労機会を創出
- 遠隔診療、IoTによる業務効率化の検討
- ICT教育の推進、幅広いの知見の共有
- テクノロジーを活用し状態基準保全への移行
- テクノロジーを活用した買い物支援※
- 津南版「e-residency（電子居住）」の検討
- VRや民泊サービス等の活用検討

- 電子自治体の推進
- 町民目線のスマートタウンの実現
- 町内外共創型プラットフォームの構築

テクノロジーによる成熟のステージを目指して

応用政策：現時点で法律や制度の壁の他、町民とのリレーションやリテラシー格差など、困難が伴うものが多いが、遠くない将来に目指すべき方向性として示す挑戦的な政策。

最新技術の実験場

AI、VR、ブロックチェーン、RPA、ドローン、ビッグデータ、ディープラーニングなど日々進展する技術分野の実践の現場として、町域や町の資源を民間企業・団体・個人に開放し、津南町と日本の未来を共創していきます。

テクノロジーベースでの住民自治・民主主義の深化

住民同士の結束と共創の推進のために、インターネットにおける情報公開を徹底し、インターネット住民投票の実施等を通して、自治意識の醸成とそれが反映された政治環境の構築を目指します。

テクノロジーを通じた新しい価値観・社会システムの構築

町民生活の向上にとっていかなる便益をもたらすかという視点でテクノロジーを活用しながら、「雪国経済圏」を新しい価値観・社会システムと捉え、仮想通貨による新しい経済圏の創出までも射程に入れた構想を検討していきます。

ありがとうございました！